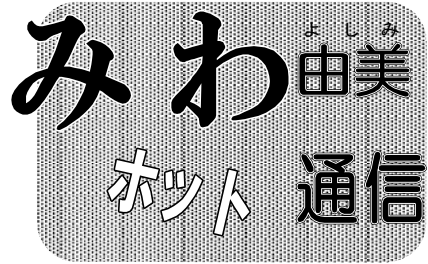


日本共産党県議会議員

見える身近なみんなの県政を



再刊第4号 2008年5月31日
日本共産党みわ由美事務所
Tel 047-349-1544 Fax 047-349-2293
〒270-2252 松戸市千駄堀1810-2
http://www.jcp-chibakengikai.jp/

驚いた！上野駅で多喜二に会った



県議会議員 みわ由美

お仕事帰りに立ち寄った上野駅のブックストア。えっ？「なぜ今？ワーキングプアって『蟹工船』なのでは？よむとおもしろい、違和感ないのがすごいです・・・」

2冊購入した。みわ由美
「蟹工船」を抱きしめた。ここには『未来』がある。東京のど真ん中で、苦悩する労働者たちに愛された多喜二がいる！

仕事帰りに立ち寄った上野駅のブックストア。えっ？「なぜ今？ワーキングプアって『蟹工船』なのでは？よむとおもしろい、違和感ないのがすごいです・・・」



JR上野駅構内の書店で

それって「蟹工船」じゃん？ (派遣の青年たちの会話)

小林多喜二

1903年、秋田県大館市生まれ。特高警察の非道な弾圧を描いた「一九二八年三月十五日」でプロレタリア作家として注目される。1933年2月20日、特高警察に逮捕され、その日のうちに虐殺される。多喜二と面識のあった志賀直哉が日記に「不図、彼等の意図ものになるべしといふ気する」と書いたことはよく知られている。

「蟹工船」とは、北洋でとったカニを直ちに加工する「移動缶詰工場」のような船。船での労働条件はすさまじく、不潔な船内と粗末な食事、連日の超長時間・過密労働による病死や、絶え間のない監視と虐待が当たり前の奴隷労働だった。

ついに労働者が団結して闘争に立ち上がる。一度は日本海軍に代表が拉致されるが、再び闘争に立ち上がる。

小説「蟹工船」



「おい、地獄に行くんだぞ！」

で始まる蟹工船が、今年に入って百万部を突破。丸善丸の内書店など大手書店では、店頭広告を出し平積み。例年の五倍の勢いで売

れたい。異なる例の増刷。息子の世代の若者が、この「出だしの小説をみようと、現実、

「人を人として扱ってほしい！」

抑えられ、涙をわけもなく私は、涙を... 抑えることができなかった。
「人を人として扱ってほしい！」
「蟹工船」を読め。それは、現代だ。20歳。私の兄弟たちがここにいないのではないかと錯覚するほどに親しみ深い。34歳ネットカ



見。まっすぐな怒りと強い覚悟に、感動した。フェ部門...と、読書の受賞者らの感想は、実際にイキイキと躍動している。私は大変な衝撃を覚えた。未来を担う現代の青年から、もっと学びたい。そして共に行動したい。みわ由美

資本主義の暴走—貧困・投機・環境

ルールある経済社会を



「サンデープロジェクト」で発言する志位委員長＝18日（テレビ朝日から）

テレビ朝日系番組 志位委員長が語る

「マルクスはもはや限界なのか」
——。テレビ朝日系「サンデープロジェクト」は

5月18日、「資本主義は限界か？」というタイトルの「日本共産党・志位和夫委員長に聞く」企画を放送しました。資本主義の限界を正面から問うける企画は異例です。

世界中で流れたナレーション。番組は、サブプライムローン問題に端を発し格差、世界中的な冒頭の言葉は、番組で流れたナレーション。番組は、サブプライムローン問題に端を発し格差、

差拡大などは資本主義の限界を示すものなのかを、田原総一朗氏が志位氏に問いかける形で進行。最近の『蟹工船』（小林多喜二著）やマルクスのブームも話題になりました。

環境」での資本主義の暴走ぶりが浮かび上がりました。「いまの資本主義と共産党の主張との競争は、ある意味、環境問題でかなりクリアに出ていると思います」（星浩・朝日新聞編集委員）との発言も。欧州と比べても異常なノンルールぶりを指摘した志位氏は「ルールのない資本主義から、ルールのある経済社会に進もう」と呼びかけました。

「マルクスが百年以上前に、将来は資本主義の限界が見えてきて破たんするといった。田原氏のこんな質問に、志位氏は「もうけ第一主義の暴走が限界に来て

「社会的規制」が必要
番組終了後、党本部には電話やメールが殺到。「全面的に共感、賛同しました」「マルクスの言うとおり、資本主義の限界がきていると思う」などの感想が寄せられました。

共感の電話・メール殺到

テレビに「かじりつたです。だけど、新しい社会をどうつくるのかということにつながるエネルギーはみなぎっていましたよね。だから私は、社会とか政治とかを与えられたものとして、そこに自分の居場所があるかということではなくて、居場所のないような社会は変えて、居場所のある社会をつくる。自分で夢と希望の条件をつくるというつもりで、現在を見てほしいと思っただけです。今の社会の貧しさを自分の貧しさにしちゃいけないですよ。今の社会が貧しければ、豊かな可能性が出る社会に変えられるのが民主権なんだから。国民主権の主権者に若い人たちがどんどんなっ

不破前議長 テレ朝系番組で

若者にメッセージ

スタジオには、学生57人が同席。司会者が「日本の未来に希望が持てるか」と問いかけると、希望が持てるかと持てないが半々でした。

その学生たちに不破さんは、自らの青年時代とも比較してこんな言葉を贈りました。

たです。だけど、新しい社会をどうつくるのかということに



詳細は、「しんぶん赤旗」日曜版5月25日号をご覧ください。

テレビ朝日系「サンデープロジェクト」が番組二十周年スペシャル企画として5月11日に放送した「激動の歴史を語る」。日本共産党の不破哲三前議長が、中曽根康弘元首相・土井たか子元衆院議長と語り合いました。

5・11「サンデープロジェクト」

不破さんの言葉に励まされ

夢 あきらめないで コーナー

あらためて目が潤みます。小中学時代に受けたイジメ体験から解放される道はないかと、高校時代には毎日のように思案していました。マルクスとの私の出会いは大学での講義でした。そんなとき共産党宣言を読んで、これだ！と。マルクスは私に期待感を与えてくれました。そして今は、不破さんが私の生きる力にいつもなっています。あの番組の最後の不破さんの一言が印象深かった、

「居場所のない社会は変えて、居場所のある社会をつくる。自分で夢と希望の条件をつくる」。

労災を申請するか否かで私が迷っていたときに、この言葉がたたかいの第一歩を踏み出す力となりました。番組のなかで「マルクスは革命家。世の中をどう変えるかで全部貫いている」と不破さんが発言しました。「人間らしさ」のことでしょう。マルクスの理論を学んでみたい、さらには自分の理論にして発展させたいと意欲がわきました。今岡洋二（29歳＝松戸市在住）

不破さんの話に、中曽根元首相も「その通りです」と応じました。